

【高等教育機関等の知的・人的資源の活用】

1	(公社) ふじのくに地域・大学コンソーシアムの事業 高校等出張講座事業.....	1
2	高校生アカデミックチャレンジ(高大連携推進)事業.....	2
3	県内公立高校における高大連携の実施状況.....	3
4	県内の国立・県立の研究機関等一覧.....	4
5	県研究機関等の取組事例.....	6
6	県研究機関と高等教育機関の研究分野における連携.....	9



# 1 (公社) ふじのくに地域・大学コンソーシアムの事業 高校等出張講座事業

## 1 概要

大学等の教員が、県内の高等学校等へ出張し、静岡県に関するテーマ等により講義を行う。(県補助事業)

## 2 実施状況 (平成 27 年度)

実施日	実施校	講座名	講師	受講人数
H27. 6. 22	城南静岡高校	静岡学 ー静岡を学ぶ、静岡で学ぶー	静岡大学 准教授	3年生 70人
H27. 6. 30	天竜高校	大学での学び ーなぜ学ぶのか、どんな「チカラ」 が身に付くのかー	静岡文化芸術大学 教授	1年生 20人
H27. 7. 7	天竜高校	静岡学 ー大学で地元「静岡」を研究すると どうなるかー	静岡県立大学 助教	1年生 34人
H27. 7. 7	川根高校	静岡から世界へ ー多言語・多文化社会に目を向けようー	静岡県立大学 教授	全校 約140人
H27. 9. 1	富士宮東高校	防災講座 ーいざというときの心理と行動ー	常葉大学 准教授	全校 約700人
H27. 9. 1	清水西高校	東日本大震災に学ぶ ー次の東海地震や富士山噴火に備えるー	東海大学 教授	全校 731人
H27. 9. 8	浜松修学舎高校	静岡学 ー富士山の自然、歴史・文化ー	常葉大学 教授	1年生 42人
H27. 9. 14	城南静岡高校	静岡学 ー今、「データ」と「情報」は どのように流れているのか?ー	静岡産業大学 教授	1~3年生 72人
H27. 9. 17	浜松修学舎高校	家康と信玄・勝頼の攻防	静岡大学 名誉教授	2年生 42人
H27. 10. 7	掛川工業高校	高性能計算とは?	静岡理工科大学 准教授	1年生 40人
H27. 11. 6	磐田東高校	防災講座	常葉大学 准教授	1年生 278人
H28. 2. 2	浜松市立高校	地域資源の活用と海外展開 ー浜松地域のものづくり産業ー	浜松学院大学 准教授	1・2年生 約800人

## 2 高校生アカデミックチャレンジ（高大連携推進）事業

### 1 概要

理数科や職業系専門学科等を設置する高校と大学との連携を一層強化し、高校生に高度な学問の一端に触れたり、研究体験や活動を行ったりする機会を提供することにより、全県から専門分野で卓越した資質を有する生徒を発掘し、その意欲・能力を伸張することで、高校在学時から専門性を有し国際科学オリンピックや学会発表等で活躍する人材育成を推進する。

### 2 実施状況（平成 27 年度）

区 分	内 容	人数
オリンピック チャレンジ (自然)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数を学ぶ高校 1、2 年生を対象に、国際科学オリンピック等への参加を促し、4 日間の講習会等を実施することにより参加者を支援する。</li> <li>・国際科学オリンピック等で上位入賞を目指す。 (物理、化学、生物、地学各 1 講座×20 人)</li> </ul>	募集 80 人  参加 82 人
	大学教授等による総合教育センター等における講習	
イノベーション チャレンジ (産業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学科、総合学科に学ぶ高校 1、2 年生を対象に、学会等の研究発表等を促し、4 日間の学習会や現地調査を実施することにより参加者を支援する。 (農業、食品、商業各 1 講座×20 人)</li> </ul>	募集 60 人  参加 61 人
	静岡県立大学（農業、食品、商業）、静岡大学（農業）における講習等	
チャ レン ジ ラ ボ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 日間の大学での研究活動を大学院生等とともに行う。</li> <li>・国際的に活躍できる科学技術者や研究者の育成を目指す。</li> <li>・前年度にオリンピックチャレンジへ参加した者を優先的に選抜する。 (物理、化学、生物、地学各 1 講座×5 人)</li> </ul>	応募 20 人  参加 23 人
	静岡県立大学（化学）、静岡大学（物理、生物、地学）における研究活動	
実学分野 (産業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーションチャレンジの参加者から 2 年生 5 人を選抜し、4 日間の大学での研究活動を大学院生等とともに行う。その後、学校で研究を継続し、学会発表や大会等で上位入賞を目指す。(農業 1 講座、食品 1 講座、工業 4 講座、商業 2 講座、芸術 1 講座 計 9 講座×5 人)</li> </ul>	募集 45 人  参加 42 人
	静岡県立大学（食品、商業）、静岡文化芸術大学（芸術）、静岡大学（農業、工業）、沼津工専（工業）における研究活動等	

### 3 県内公立高校における高大連携の実施状況

#### 1 実施状況

平成 26 年 4 月に「高校と大学の連携・接続のあり方検討委員会」の最終報告書が出されたことを機に、大学と連携した取組を実施している県内公立高校の数は増加している。

報告書が出される以前の平成 24 年度と報告書が出された以後の平成 26 年度を比較した結果は以下のとおりである。

H24	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立高校 101 校（分校 2 校を含む）中、75 校（74.3%）が実施</li> <li>参加生徒数は延べ 26,911 人（生徒数の 40.7%）</li> </ul>
H26	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立高校 95 校（分校 3 校を含む）中、78 校（82.1%）が実施</li> <li>参加生徒数は延べ 35,781 人（生徒数の 50.8%）</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校数で 3 校（7.8%）増加</li> <li>○生徒数で延べ 8,870 人（+10.1%）増加</li> </ul>
--

#### 2 取組の内訳等

平成 26 年度に実施された高大連携に関する取組は 850 件であり、平成 24 年度と比較して、286 件増加している。

H24	564 件【県内大学 324 件（57%）、県外大学 241 件（43%）】
H26	850 件【県内大学 434 件（51.1%）、県外大学 416 件（48.9%）】

<内訳>

※H24 と H26 は調査区分が変更されている。

	区分	件数	内訳	
			（上段：県内大学）	（下段：県外大学）
H24	出前講座等	496 件（88%）	283 件（57%）	213 件（43%）
			41 件（60%）	27 件（40%）
	その他	0 件（0%）	0 件（0%）	0 件（0%）
			324 件（57%）	241 件（43%）
計	564 件（100%）			

	区分	件数	内訳	
			（上段：県内大学）	（下段：県外大学）
H26	大学での授業体験	90 件（10.6%）	55 件（61.1%）	35 件（38.9%）
			300 件（52.8%）	268 件（47.2%）
	その他 （大学見学や学校説明）	192 件（22.6%）	79 件（41.1%）	113 件（58.9%）
			434 件（51.1%）	416 件（48.9%）
計	850 件（100%）			

## 4 県内の国立・県立の研究機関等一覧

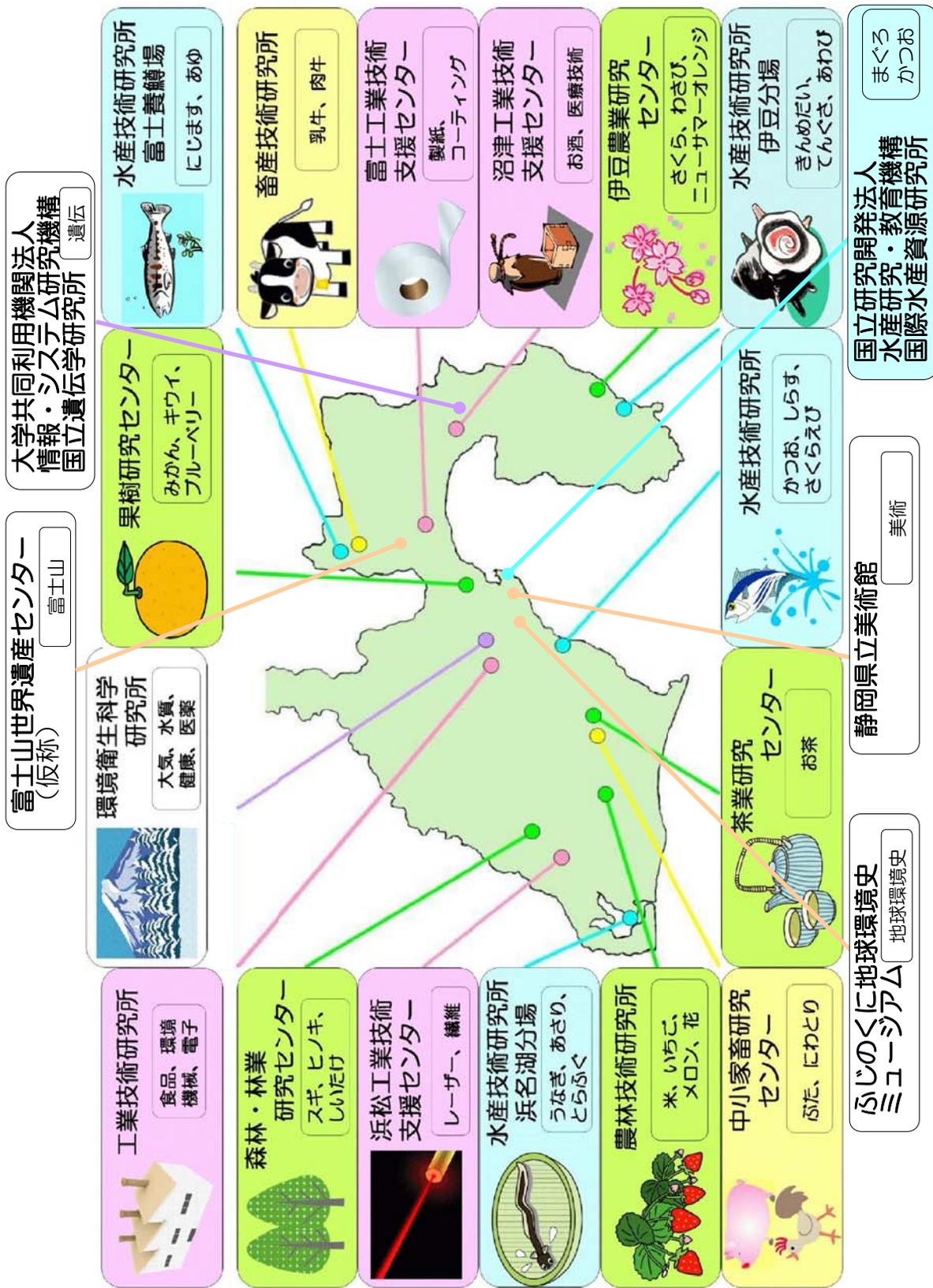
### 1 国立の施設

番号	施設名	所在地	主たる研究内容
1	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所	三島市	大腸菌からヒトまで、分子レベルから生物集団レベルまで、遺伝学に関わる幅広い分野を研究
2	国立研究開発法人水産研究・教育機構 国際水産資源研究所	静岡市	まぐろ、かつお等の国際的資源の持続的利用を実現するための調査・研究を実施

### 2 県立の施設

番号	施設名	所在地	主たる研究内容
1	農林技術研究所	磐田市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜、花き、水稻、茶、果樹、わさびの新品種育成</li> <li>・栽培技術・省力化技術の開発など</li> </ul>
	茶業研究センター	菊川市	
	果樹研究センター	静岡市	
	伊豆農業研究センター	東伊豆町	
	伊豆農業研究センターわさび科	伊豆市	
	森林・林業研究センター	浜松市	森林管理技術の開発、スギ・ヒノキの新品種育成、鳥獣害対策研究など
2	畜産技術研究所	富士宮市	牛、豚、鶏の生産性向上や品質改善、医療用実験豚の実用化技術開発など
	中小家畜研究センター	菊川市	
3	水産技術研究所	焼津市	サクラエビ等の資源量推定技術の開発、ウナギ種苗の生産技術の開発、ニジマス優良品種の開発など
	伊豆分場	下田市	
	浜名湖分場	浜松市	
	富士養鱒場	富士宮市	
4	工業技術研究所	静岡市	機械、電子、材料といった共通基盤技術の開発や、食品（静岡）、バイオテクノロジー（沼津）、製紙（富士）、光（浜松）といった地域特化技術の開発など
	沼津工業技術支援センター	沼津市	
	富士工業技術支援センター	富士市	
	浜松工業技術支援センター	浜松市	
5	環境衛生科学研究所	静岡市	創薬探索、富士山水資源の有効活用、ノロウイルス不活化剤の探索、PM2.5成分に関する研究など
6	ふじのくに地球環境史ミュージアム	静岡市	人と自然の共生を目指し、人と地球上の生態環境との関わりを歴史的に調査・研究
7	富士山世界遺産センター（仮称） ※平成29年10月末完成予定	富士宮市	富士山の総合的、学際的、国際的な研究
8	静岡県立美術館	静岡市	東西の風景画等の調査研究に基づく企画展示の実施

# 県内の国立・県立の研究機関等一覧



## 5 県研究機関等の取組事例

施設名	事業名等	内容
農林技術研究所	森林教室	・職員が、県内の小中学校等で、森林についての授業を実施
	農業高校への講師派遣	・農業高校の教員の専門知識及び指導力向上のために、磐田農業高校、田方農業高校に講師として職員を派遣
	農業高校の教員資質向上研修	・農林技術研究所において、県内の農業高校の教員の農業学習の研究及び指導力の向上を図るために、教員資質向上研修「プロジェクト指導研修」を実施
	農業高校の生徒の研修	・農林技術研究所において、農業高校の生徒に対して、花から採集した酵母の培養・分離方法について、研修を実施
	普通高校への講師派遣	・稲取高校、下田高校に職員を派遣して野菜栽培技術、マーガレット等花きの育種技術を講義
	大学への講師派遣	・静岡大学に職員を派遣して茶の栽培育種技術を講義
	国立技術研修所への講師派遣	・国立研究開発法人農業研究機構果樹研究所農業技術研究所（静岡市清水区）に職員を派遣して果樹生産環境学を講義
農林技術研究所 畜産技術研究所	静岡県先進的 農業推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡大学農学部と県経済産業部が連携し、ビジネス経営体等の農業人材の育成を進めるため、大学院生を対象とした講義等を実施し、県職員を講師として派遣</li> <li>・平成21年度から平成27年度までの間に、70名の大学院生が受講</li> </ul>
水産技術研究所	水産高校への講師派遣	・焼津水産高校（スーパープロフェッショナル指定校）に職員を派遣して藻場の調査方法を指導
	普通高校への講師派遣	・稲取高校（スーパー食育指定校）職員を派遣して海藻栄養学を講義
	大学への講師派遣	・東海大学に職員を派遣して沿岸植物学、水産食材論を講義

施設名	事業名等	内容
工業技術研究所	工業高校への講師派遣	・スーパーサイエンスハイスクール事業に関連して生徒の研究活動やプレゼンテーション能力向上のために、浜松工業高校に講師として職員を派遣
	大学への講師派遣	・静岡県立大学、静岡理工科大学に職員を派遣して健康環境科学、機器分析学を講義
環境衛生科学研究所	環境学習講座	・学校、市町、児童クラブ、企業等が主催して行う環境学習会に環境衛生科学研究所の職員を講師として派遣し、平成27年度は、21回、計682名が受講
	商品テスト実習講座	・小中学生や一般消費者を対象に商品テスト実習講座を開催し、平成27年度は18回、計424名が受講
	大気汚染に関する説明会	・移動用大気測定車を設置した小学校において、大気汚染に関する説明会を実施し、平成27年度は、1回、41名の生徒が受講
	大学への講師派遣	・静岡県立大学に職員を派遣して食中毒原因細菌やウイルスの検出法を講義
農林技術研究所 畜産技術研究所 水産技術研究所 工業技術研究所 環境衛生科学研究所	連携大学院制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の研究機関が大学院生を受け入れ、大学から「客員教授」等の発令を受けた研究員が学生を指導</li> <li>・平成15年度から平成27年度までの間に、71名の大学院生を受入れ</li> </ul>
ふじのくに地球環境史ミュージアム	館内外における博物館活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示における、小中学生等の団体を対象とした研究員等のスタッフによる展示解説</li> <li>・学芸員を目指す大学生を対象とした博物館実習の受入れ</li> <li>・県内の小中学校等を巡回し、標本の展示や出前講座を行う移動ミュージアム事業の実施</li> </ul>
富士山世界遺産センター(仮称) ※平成29年10月末完成予定	普及・教育事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民等を対象とした「富士山世界遺産セミナー」を開催</li> <li>・センターの研究員等が講師となって県内各地で講義を行う「出前講座」を実施</li> </ul>

施設名	事業名等	内容
静岡県立美術館	鑑賞講座	・子供又は親子を対象とした鑑賞講座を展覧会毎に実施
	わくわくアトリエ	・親子で参加できる美術体験企画として立体・彫刻や絵画を取り上げ、様々な技法で共同制作を行うワークショップを年4日程度実施
	えのぐ開放日	・親子で参加し、絵の具で自由に遊ぶ体験の日を年12回程度開催
	ねんど開放日	・親子で参加し、粘土で自由に遊ぶ体験の日を年36回程度開催
	夏休み子どもワークショップ	・夏休みの小学生を対象にしたワークショップを4日間開催
	美術館教室 (学校連携普及事業)	・来館児童、生徒を対象とした実技・鑑賞のプログラムや学芸員が交代で各学校に赴き美術講座等を実施する出張美術講座を年100回以上開催

#### 【参考】県出資法人の代表的な取組事例

施設名	事業名等	内容
公益財団法人 静岡県舞台芸術 センター	SPAC シアター スクール「親と 子の演劇教室」	・小学校6年生～高校2年生までの児童・生徒とその親を対象にして、夏休みの演劇教室を開催し、稽古及び発表会を行う。
	スパカンファン 公演	・オーディションにより選考する県内の中高生と、フランスを拠点に活動を展開する振付家メルラン・ニヤカム氏が舞台作品を創造する。
	中高校生舞台 芸術鑑賞事業	・県内中高生を対象に、平日に学校・学年単位で無料公演を行う。
	高校演劇ワーク ショップ	・県内高校演劇部の生徒が、スタッフや俳優の指導により演技、演出、スタッフワークを学ぶ。
	異才・天才・奇才 SPAC こども大会	・子供たちの感性あふれる表現力を育てるとともに次世代の舞台芸術の担い手を育て応援するために、県内の小学生を対象として、歌唱、舞踊、演奏、その他様々な身体芸の才能を発揮する。
	おはなし劇場	・子育て世代の親子を対象とし、絵本の読み聞かせとは違い、俳優の声と音楽でつくる物語の世界を創作し、親子で演劇について理解を深めてもらう企画を県内各地で実施する。

## 6 県研究機関と高等教育機関の研究分野における連携

### 1 要 旨

県は、県内大学等と研究分野で連携を図るため、4大学及び沼津工業高等専門学校と連携協定を締結している。県研究機関と高等教育機関は、連携を契機に、共同研究の幅を広げるとともに、それぞれのネットワークを利用して産業界へ幅広くアドバイスを行い、満足度の向上や新商品開発等へつなげていく。

### 2 概 要

#### (1) 連携協定について

締結先	締結日	目 的
静岡大学 静岡県立大学	H21. 10. 16	研究分野における相互の緊密な連携と協力により、静岡県内産業の技術力向上と産業振興に貢献
東海大学	H24. 11. 23	海洋、水産業に関する研究分野における相互の緊密な連携と協力により、静岡県の産業振興と海・川の恵みの持続的利用の確保に貢献
沼津工業高等専門学校	H25. 2. 4	研究事業及び静岡新産業集積クラスターの推進を通じて、相互の緊密な連携と協力により、県内産業の技術力向上と産業振興に貢献
静岡理工科大学	H25. 11. 15	ロボット、情報等の工学からバイオ、環境等の幅広い分野における連携を通じ、企業の新商品開発や地域産業の活性化などに貢献

#### (2) 連携事項と平成 27 年度の実績

連携事項	内 容
産業界への技術支援	・ 県研究所と連携大学等による共同（協力）研究 28 課題
産業界の人材育成支援	・ 県研究所と大学による合同研究発表、成果展示 静岡県立大学 US フォーラム 2015 (9/29) 静岡理工科大学「地域創生フォーラム」(11/24) フーズ・サイエンスセミナー (6/15 静岡、7/31 島田、10/20 焼津) 静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専 (12/3) 静岡食品環境フォーラム (12/17)
人的交流	・ 県と各大学との連携推進協議会幹事会 (6/2) ・ 県内産業支援機関の窓口担当者等による情報交換会 (7/15) ・ 連携大学院制度による研究交流 (静大 1 名、県大 3 名受入)